

第1回  
今治市都市再生協議会  
(公共空間再編専門部会)

令和7年10月23日(木) 15:00 ~

1. 第1回今治市都市再生協議会開催結果の報告
2. これまでの経緯と「中心市街地グランドデザイン」の概要
3. 関連する検討・取組の共有
  - シビックゾーンの公共施設整備
  - 中心市街地全体での都市基盤整備
4. 【議題1】都市再生整備計画の検討について
5. 【議題2】今年度の検討内容について
  - 中心市街地交通デザイン戦略（広小路を含む）
  - 広小路（今治港線）での社会実験の企画検討
  - エリアマネジメントの推進に向けた検討
6. 意見交換
7. 今後のスケジュール

# 1. 第1回今治市都市再生協議会開催結果の報告

---

# 事業推進に向けたR7年度の検討体制

- 2つの会議体の設置（8月19日に実施した第1回都市再生協議会にて承認済）  
「**今治市都市再生協議会**」：都市再生整備計画の作成と検証  
「**専門部会**」：個別事業及び社会実験の検討

2025年8月19日に第1回を実施済

## 今治市都市再生協議会

- 都市再生整備計画の作成及び変更
  - 都市再生整備計画関連事業の実施及び効果検証（R8以降）
  - 中心市街地まちづくり（公共空間デザイン）の検討【総合的審議】
- 《構成》学識経験者、関係団体（経済・商店街等）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

都市再生整備計画の  
作成と検証

報告 ↑ ↓ 付託

## 専門部会（協議会の下部機関）

- 中心市街地の公共空間再編整備の事業化検討
  - 上記に関連する社会実験の検討・実施
  - 中心市街地の公共空間デザインに関する検討【実質協議】
- 《構成》公共交通事業者、学識経験者、関係団体（商店街）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

個別事業及び社会実験の検討

# 第1回都市再生協議会の開催概要

日時	令和7年8月19日(火) 10:00~12:00		
場所	今治市みなと交流センター「はーばりー」1階みなとホール		
参加者（委員）	土居忠博 今治市 副市長 会長 (敬称略)	中原一也 愛媛県東予地方局今治支局 支局長	町田一益 愛媛県東予地方局今治土木事務所 所長
	泉浩徳 今治明德短期大学 学長	羽鳥剛史 愛媛大学 教授 副会長	瀬野洋一郎 (代理)瀬野和博 今治海事都市交流委員会 監事
	野間有造 今治市社会福祉協議会 理事 監事	檜垣幸人 今治商工会議所 会頭	友田康貴 今治商店街協同組合 理事長 監事
	越智逸宏 今治地方観光協会 会長	矢野将文 株式会社今治. 夢スポーツ 代表取締役	
会次第	<b>1 開会</b> <b>2 市長挨拶</b> <b>3 委員紹介</b> <b>4 規約等について</b> <b>5 議事</b> (1) 役員の選出について (2) 令和7年度事業計画及び収支予算(案) (3) 専門部会の設置について	<b>6 報告等</b> (1) 今治市中心市街地グランドデザインの概要と今年度の取組について <b>7 今後のスケジュールについて</b> <b>8 閉会</b>	

# 第1回都市再生協議会における主な意見（1）

項目	意見要旨
中心市街地 グランドデザインについて	<ul style="list-style-type: none"><li>グランドデザインは市民とともに3～4年かけ策定。</li><li>市長と早期実現の必要性を共有。</li><li>計画全体は長期だが、社会実験や工事を通じて、今年・来年から市民参画を進めるべき。</li><li>協議会で市民を巻き込みながら事業を進める方策を議論したい。</li><li>過去の計画が実現に至らなかった経緯を指摘。</li><li>ターゲット設定が重要。</li></ul>
ネウボラ拠点施設について	<ul style="list-style-type: none"><li>ネウボラ拠点施設は18歳までを対象とする多機能複合施設。</li><li>子育て支援、地域交流、検診・保健指導などを包含。</li><li>予算制約やMICEとの整合が課題。市民ファーストで柔軟に検討継続。</li></ul>
複合庁舎整備について	<ul style="list-style-type: none"><li>市役所・県支局庁舎とも耐震性の課題あり。</li><li>今治市と連携した複合庁舎整備の可能性を引き続き検討。</li></ul>
MICE機能の導入について	<ul style="list-style-type: none"><li>MICE機能は中心市街地に必要。周辺の都市機能や駐車場、アクセス性を考慮すると旧日吉小学校跡地を主たる候補地とし、分散型施設が望ましい。</li><li>バリシップ拡大には十分な会場面積が必要。海外事例を参考にすべき。</li><li>バリシップの拡大、外国人技能者との共生、英語教育の強化を要望。</li></ul>

# 第1回都市再生協議会における主な意見（2）

項目	意見要旨
広小路の再整備について	<ul style="list-style-type: none"><li>• 広小路整備の具体像を確認したい。落ち葉等の問題を指摘。</li><li>• <b>広小路再整備の方向性は、歩行者中心の空間形成。</b></li><li>• <b>回遊性向上のため歴史資源や自転車ネットワークとの連携が必要。</b></li><li>• 交通量は2車線で対応可能と思われる。</li><li>• 今回の計画は、交通の変化や渋滞等、沿線住民の方々への負担が生じないような整備方針となるよう、<b>社会実験を重ね、議論を深めることが大事。</b></li><li>• 丹下建築の軸線や市民広場の思想を踏まえており、<b>広小路がグリーンアベニューとなることを高く評価。広小路整備による居住や経済活動への副次的な波及を期待。</b></li><li>• パークアンドライドや電気自動車の周回など、<b>多様な移動手段の整備を提案。</b></li><li>• <b>点在する都市機能を線で結ぶことが重要</b>であり、<b>広小路整備を最優先で進めるべき。</b></li></ul>
港湾・観光振興	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>港に誘客の「目玉」が必要。</b>市港湾駐車場が有料は課題。</li><li>• 観光振興と市民生活の調和が重要。</li><li>• <b>金星川（旧外堀）の歴史的要素を整備に活用すべき。</b></li><li>• <b>丹下建築の保存と活用</b>（例として建築系大学の誘致）を提案。</li></ul>
商店街再生	<ul style="list-style-type: none"><li>• 商店街衰退の主因は代替わりの問題（後継者不在）と新規参入困難。</li><li>• <b>ハード整備だけでなく、運営する人材・ソフトが不可欠。</b></li><li>• 行政の柔軟な支援（コンテナハウス活用、学生居住、コンテナショップなど）を提案。</li></ul>

# 第1回都市再生協議会における主な意見（3）

項目	意見要旨
大学との連携・ 人材育成	<ul style="list-style-type: none"><li>• 空き家活用や大学連携による新展開に期待。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>• 重要なのは施設整備よりも、市民とともに考えるためのプラットフォームづくり。</li><li>• 中心市街地は他エリアと連携して集客を図る必要あり。</li><li>• 空き地・空き物件（グランドデザインの白地部分）の流動性確保は行政課題。</li><li>• 将来的に中心市街地に居住空間を整備することも重要。</li></ul>



今後の中心市街地まちづくりの進め方や今年度の検討内容について、  
①公共事業に関する検討、②公民連携によるエリアマネジメントに関する検討  
のそれぞれから情報共有・意見交換を行う

## 専門部会の位置づけ

- 2つの会議体の設置（8月19日に実施した第1回都市再生協議会にて承認済）
  - 「**今治市都市再生協議会**」：都市再生整備計画の作成と検証
  - 「**専門部会**」：個別事業及び社会実験の検討

### 今治市都市再生協議会

- 都市再生整備計画の作成及び変更
  - 都市再生整備計画関連事業の実施及び効果検証（R8以降）
  - 中心市街地まちづくり（公共空間デザイン）の検討【総合的審議】
- 《構成》学識経験者、関係団体（経済・商店街等）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

都市再生整備計画の  
作成と検証

報告 ↑ ↓ 付託

本日の会議体

### 専門部会（協議会の下部機関）

- 中心市街地の公共空間再編整備の事業化検討
  - 上記に関連する社会実験の検討・実施
  - 中心市街地の公共空間デザインに関する検討【実質協議】
- 《構成》公共交通事業者、学識経験者、関係団体（商店街）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

個別事業及び社会実験の検討

## 2. これまでの経緯と「中心市街地グランドデザイン」の概要

---





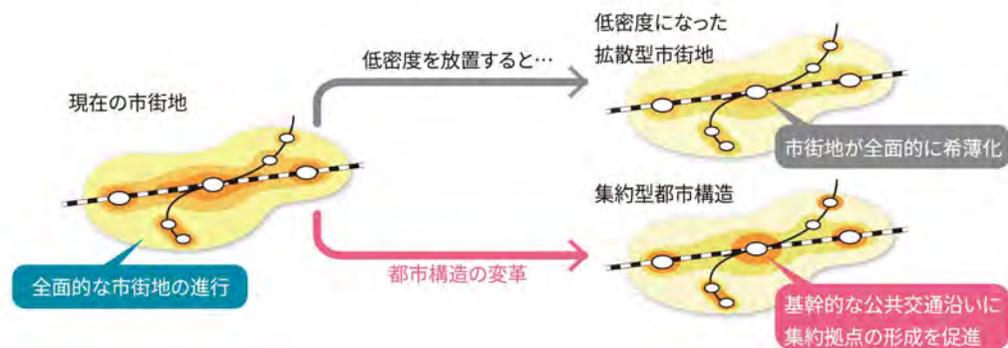
## (1) 近年の社会状況

- ①人口減少・少子高齢化
- ②都市基盤施設等の老朽化・ニーズの変化
- ③低未利用地の増加（都市のスポンジ化）
- ④地域公共交通の利便性低下
- ⑤激甚化・頻発化する災害への対応

## (2) 都市政策の方向性

### コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

- 地域の活力の維持とともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくり

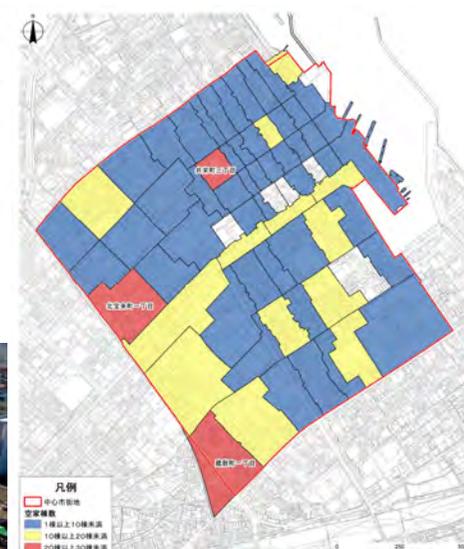


## (3) 中心市街地における現状・課題

- ①居住人口の減少等による街の活力の低下
- ②公共施設・都市基盤施設の更新需要の高まり
- ③公共交通利用者の減少
- ④商店街などの空き店舗の増加
- ⑤低未利用地（空き家・空き地）の増加
- ⑥地域資源・観光資源の活用
- ⑦今治港・「みなと再生」の取組の展開
- ⑧自転車まちづくりの推進
- ⑨災害リスク・気候変動への対応



せとうちみなとマルシェ



中心市街地における空き家の状況

## (1) まちづくりのコンセプト

中心市街地まちづくりのコンセプト

つながる みなと・まち・いまばり

Walkable Port City IMABARI

- 素晴らしい地域資源、地域文化に恵まれている今治の中心市街地では、様々な住民、企業、行政の協働によって個々の価値を磨くとともに、それらがひとつながりの魅力として、地域住民に愛され、国内、海外に発信されていくことが大切
- 海、港からはじまった今治で、みなで新しいひとつながりの魅力をつくっていくことを目指す

## (2) 基本的な考え方

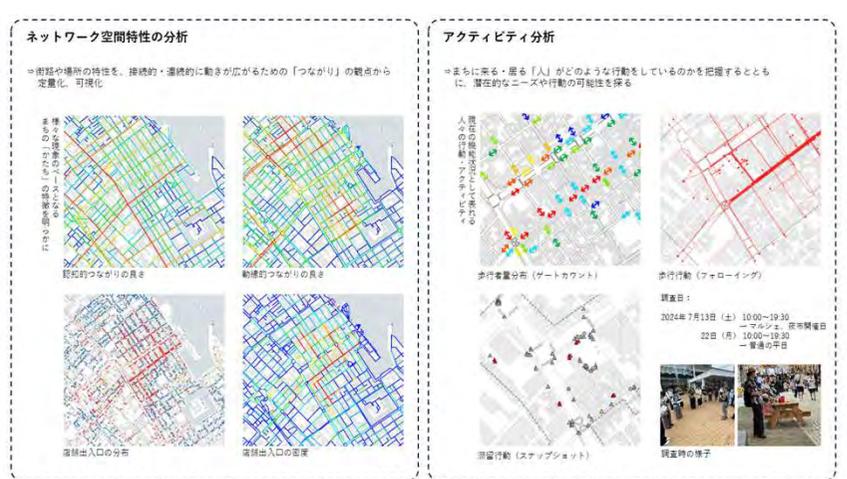
- ① 今治らしく、多世代が暮らしやすい中心市街地の再生
- ② 公共施設の再編・既存ストックの活用による都市の魅力の創出
- ③ 交通機能の再編・新モビリティの導入による回遊性の向上
- ④ 官民連携・エリアマネジメントの推進による持続可能な体制づくり
- ⑤ 地域文化を活かした観光・交流の場の創出
- ⑥ 安心・安全な環境づくりと自然・災害との共生

# エリアの設定と現状分析・課題

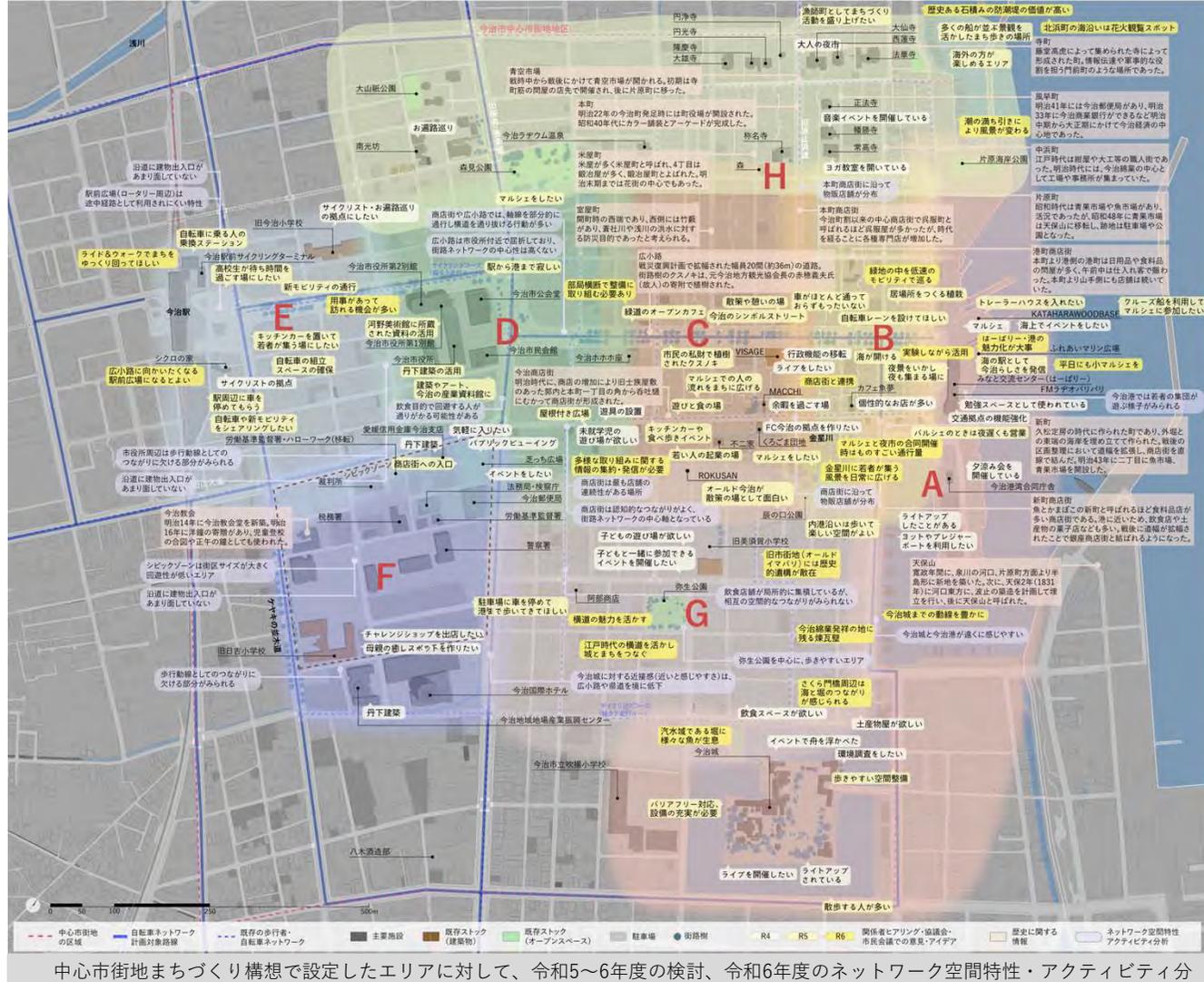
- R4~6年度に実施したヒアリング・各会議での意見や、市民の声を反映
- R6年度に実施したネットワーク空間特性とアクティビティ分析に基づき、中心市街地における都市構造の課題を整理



R4~6年度に実施した市民との意見交換



ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

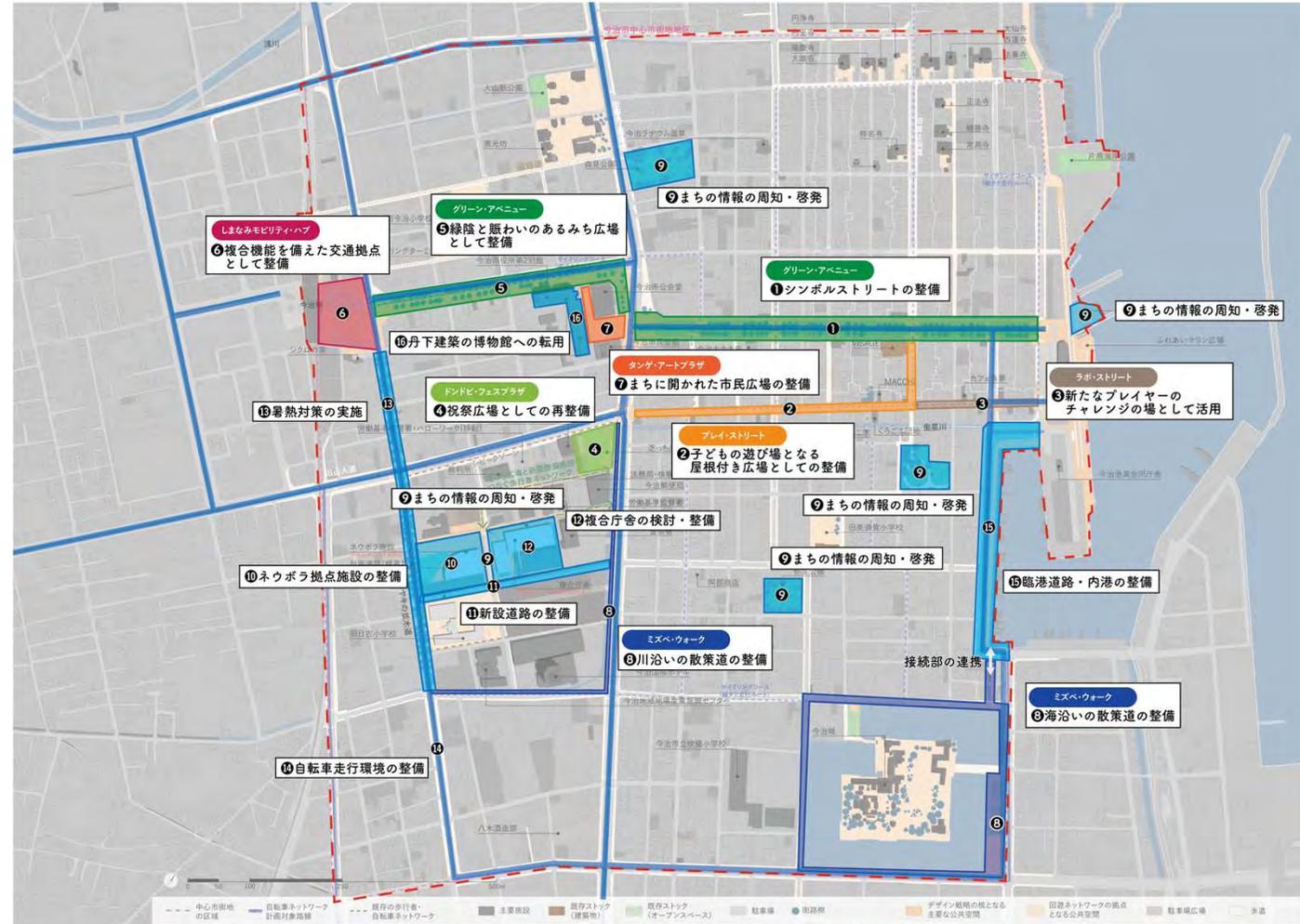


中心市街地まちづくり構想で設定したエリアに対して、令和5~6年度の検討、令和6年度のネットワーク空間特性・アクティビティ分析の結果も踏まえ、中心市街地の回遊性向上・エリア間のつながりの強化を考慮したエリアの再設定をおこなった。



# 将来ビジョンの実現化方策

- 将来ビジョンの実現に向けた段階的な事業実施のイメージを示す
- 都市再生整備計画関連事業など国の財政支援を活用し、社会実験等により多くの市民がまちづくりに関わるきっかけをつくることで、公民連携のまちづくりを推進
- まちづくり団体や関係行政機関とも連携を図りながら、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成に向けて一体的・総合的に取り組む



将来ビジョンの実現に向けた事業の実施イメージ



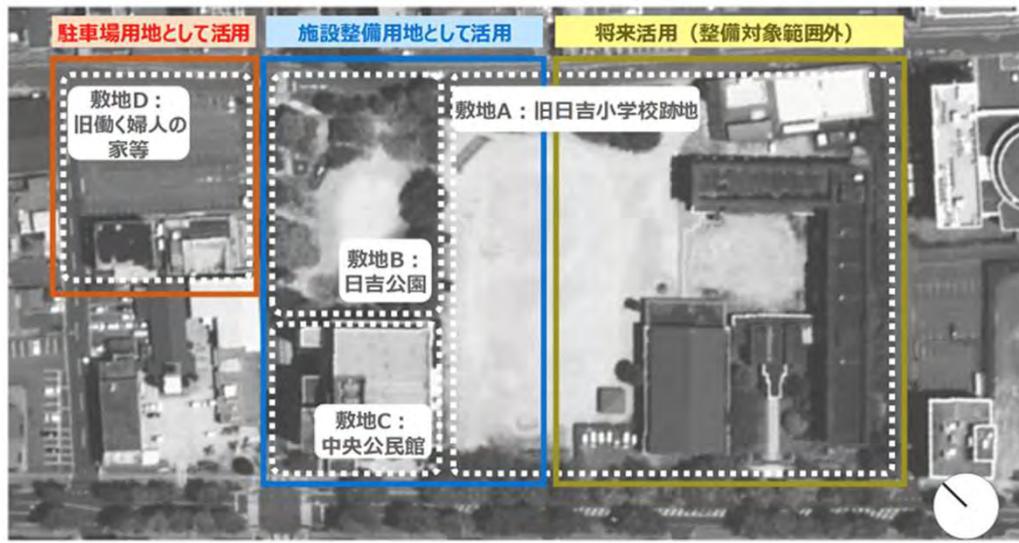
### 3. 関連する検討・取組の共有

---

## ネウボラ拠点施設整備（R12年度完成予定）

### （1）事業用地

旧日吉小学校の一部と、隣接する中央公民館、日吉公園、旧中央乳児保育所、旧働く婦人の家を含む一団の公有地を事業用地として選定



（出所）国土地理院「地理院地図」をもとに作成

（今治市：（仮称）今治版ネウボラ拠点施設整備基本計画（2024）より）

### （2）想定施設規模

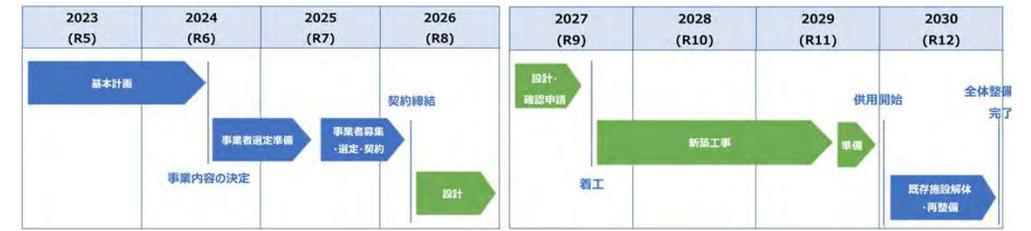
※駐車場に関しては、既存施設の利用状況、他市町村における同種施設の事例等を踏まえ台数を設定しているが、詳細は設計段階において確定する。



図表21 想定規模

区分	機能	想定面積
相談・支援	子ども家庭総合支援拠点 子育て世代包括支援センター	相談室、母子健康手帳交付室、検査室 など
地域子育て支援	地域子育て支援拠点 ファミリーサポートセンター機能 一時預かり機能	保育室、相談室、入居室 など
児童センター	児童センター	体育室（約500㎡）、遊戯室（2室計約400㎡）、図書室、学習室、創作活動室（工作室）、ボランティヤスタックルーム など
健診・保健指導	保健センター	運動指導室（約200㎡）、検査・消毒室、待合・談話スペース、スタッフルーム、ランドリー など
地域交流センター	地域交流センター	ホール、会議室、多目的室、集客室、音楽スタジオ、調理室 など ※ホールの規模に関しては、現在の中央公民館のホールの規模を参考に設定していますが、今後変更の可能性があります
その他機能	カフェ等（想定） エントランスホール トイレ（各階） 備置倉庫	
共用部分		約2,750㎡
合計（建物部分）		約7,050㎡
公園		約3,000㎡
駐車場	全体で約150台（敷地Dにおいて約90台、敷地A～Cにおいて約60台）	

### （3）想定スケジュール



# シビックゾーンでの公共施設整備の検討（2）

## 県・市複合庁舎整備（R13年度完成予定※）

※目標であり、基本計画により変更となる可能性あり

- ・ 今治市と愛媛県にて、R7年10月14日に複合庁舎整備に関する基本協定を締結
- ・ 県は今治支局の新たな庁舎として、市が建設する新たな市庁舎及びその付帯施設の一部を借り受ける
- ・ 本庁舎は、今治支局庁舎及び今治市河野美術館の敷地に建設（**グランドデザインの最適案である候補地B**）

	候補地A (芝っち広場+今治郵便局)	候補地B (県今治支局+河野美術館)	候補地C (旧日吉小学校)	候補地D (現今治市役所)
位置図				
中心市街地まちづくり構想との整合性	△ ・県支局の跡地利用の方向性が不明 ・機能増強による賑わい拠点の形成なし	◎ ・公共施設の老朽化や分散化が解消 ・十分なオープンスペースが創出される	○ ・県支局の跡地利用の方向性が不明 ・十分なオープンスペースが創出される	△ ・シビックゾーン内の公共施設整備されない ・リノベによる「文化拠点」が形成されない
施設配置による影響（回遊性や滞留性）	△ ・他エリアとの賑わいの動線を遮断 ・オープンスペースと一体で滞留空間形成	◎ ・オープンスペースと一体で滞留空間形成 ・新設道路で歩車動線明確化、回遊性向上	○ ・中心市街地の賑わいの動線から乖離 ・新設道路で歩車動線明確化、回遊性向上	× ・中心市街地の賑わい創出や滞留性の向上には全く寄与しない
周辺施設との配置（利便性や効率性）	○ 【隣接】オープンスペース（OS）、警察署 【乖離】ネウボラ拠点施設、公会堂、市民会館	◎ 【隣接】ネウボラ拠点施設、OS、警察署 【乖離】公会堂、市民会館	○ 【隣接】ネウボラ拠点施設 【乖離】OS、警察署、公会堂、市民会館	△ 【隣接】公会堂、市民会館 【乖離】シビックゾーン内の行政機関
立地条件（土地の高度利用）	○ ・幅員25mの国道と県道に接道 ・基準容積率は約442%（商業地域）	○ ・幅員12m以上の新設道路に接道 ・基準容積率は約400%（商業地域）	○ ・ケヤキ通りと幅員12m以上の新設道路に接道 ・基準容積率は約400%（商業地域）	◎ ・幅員36mの県道に接道 ・基準容積率は約500%（商業地域・防人地域）
既存施設への影響（事業スキーム）	△ ・今治郵便局を仮移転させずに施工 ・民間施設である「芝っち広場」の廃止	△ ・県今治支局を仮移転させずに施工 ・市庁舎改修完了まで美術館長期閉館	○ ・屋内運動場(部活動、社会体育)の廃止 ・校舎棟(書類保管倉庫)の廃止	○ ・市役所を段階的に仮移転させ施工 ・現地での建替工事の間、河野美術館は閉館
概算事業費（土地、建物、道路）	◎ ・複合庁舎の新設 ・市役所本館や市民会館を美術館に改修 ・民有地(芝っち広場、今治郵便局)の購入	◎ ・複合庁舎の新設 ・市役所本館や市民会館を美術館に改修 ・幅員12m以上の道路の新設 ・県有地(県今治支局)の購入	○ ・複合庁舎の新設 ・市役所本館や市民会館を美術館に改修 ・幅員12m以上の道路の新設	△ ・現庁舎(1958年竣工)の耐震改修(一定期間経過後には建替が必要) ・河野美術館の建替(現在と同敷地) ・市役所本館規模の仮設庁舎
留意事項	・複合庁舎化へ今治郵便局の合意必須(集配業務の代替や移転補償費の提示等) ・「芝っち広場」所有者との用地交渉	・複合庁舎化へ県今治支局の合意必須 ・河野美術館閉館中の収蔵品保管場所 ・「新設道路用地」所有者との用地交渉	・「新設道路用地」所有者との用地交渉 ・「屋内運動場」廃止の協議	・河野美術館閉館中の収蔵品保管場所 ・議会開会中は現議場を使用(代替施設なし)

グランドデザインにおける施設再編パターンの比較検討

## MICE機能整備（完成年度：未定）

### （1）基礎調査の目的

グランドデザインとの整合性を図り、それらの関連計画を考慮して集約・複合化する機能及びMICE機能及び、MICE施設の設置場所・規模・機能等を整理し、基本計画につなげる

### （2）中間報告の位置づけ

- ①候補地・機能・規模に関する方向性の暫定整理
- ②MICE構想案の提示

### （3）設置場所の一次評価

MICE等の多目的利用を可能とするスタジアム・アリーナに関して有望度の一次評価を行った結果、旧日吉小学校が最も評価が高く、次いで大型フェリー駐車場の評価が高かった。港案や分散設置案も引き続き精査が必要。

（今治市「今治市MICE機能設置基礎調査中間報告」より）



	フェリー駐車場	旧日吉小	フジグラン	旧城東小
面積	約4,800㎡	約8,700㎡	約33,000㎡	約12,000㎡
機会費用 (14点満点)	12	12	6	6
社会的費用 (8点満点)	4	6	4	4
周辺の開発 ポテンシャル (6点満点)	3	5	2	1
公共交通機関 によるアクセス (10点満点)	6	10	1	1
自家用車による アクセス (4点満点)	1	2	3	2
1次評価	26点	35点	16点	14点

# シビックゾーンでの公共施設整備の検討（3）

## MICE機能整備（完成年度：未定）

### （4）必要な機能・規模

バリシップの円滑な開催に向けては、最小でも7,400㎡の面積確保が必要で、さらなるスペース確保も期待。

教育・学習、文化・芸術、興行、地域魅力発信、産業交流、飲食、スポーツ・ヘルスケア等、掛け合わせる機能はMICEの意義、設置場所、周辺施設との連携の視点が重要。

### （5）構想案（5案）

地域交流・人材育成拠点、賑わい再生拠点、関係・交流人口の拡大拠点等、5案を設定。

最終判断には、需要推計・用地確定・事業スキーム整理が必須。

### （6）その他重要論点

MICE運営に向けて、民間による運営主体の検討が必要。

MICEで創出される人流を港・中心市街地へ回遊させるため、モビリティ施策の検討が必要。

機能	希望される用途	必要面積	
バリシップの円滑な開催に必要な機能	ブース出展・イベント	バリシップブース出展、学会、企業研修、各種イベント（企業イベント等）	7,400㎡～
	実機展示	天井高・耐荷重性能が必要な実機展示	
	セミナー	セミナー、学会、市民向け講演会、ピッチコンテスト	
バリシップ開催の工夫で対応可能な機能	商談	VIPとの商談、軽食・アルコール提供、クローク	
	教育・学習	今治サテライト、インターナショナルスクール、公開講座、習い事	
	文化・芸術	各種発表会、演奏会（500席程度のホールを含む）	
市民交流・市街地活性化に向けた機能	興行	プロスポーツ、コンサート、ライブ	
	地域魅力発信	海事ミュージアム、模型・歴史展示、デジタルアート	
	産業交流	探求授業、シェアオフィス、コワーキングスペース、産業振興、インキュベーション	
	飲食	マルシェ、屋台市場、市場、フードコート	
	スポーツ・ヘルスケア	室内スポーツ、フィットネス	

**要検討**  
※今後ブース出展・イベント、実機展示機能との空間共有の検討が必要になるため

※付加する機能によっては面積が増加する可能性がある

	構想案A	構想案B	構想案C	構想案D	構想案E
MICEの意義	地域住民の交流と人材育成・誘致・遊流	地域住民の交流と人材育成・誘致・遊流	港・商店街の賑わい再生	地域住民の交流と人材育成・誘致・遊流	関係人口・交流人口の拡大
顧客ターゲット	地域住民、企業・大学	関係人口・交流人口の拡大 地域住民、企業・大学、県外・海外観光客	地域住民、県外・海外観光客	港・商店街の賑わい再生 地域住民、企業・大学、県外・海外観光客	県外・海外観光客
設置場所	旧日吉小学校（市有地）	旧日吉小学校（市有地）	大型フェリー駐車場（市有地）	旧日吉小学校 + 大型フェリー駐車場	フジグラン今治（民有地）
連携が想定できる周辺施設（一例）	地場産センター、今治国際ホテル、ネウボラ施設		はーばりー、ヴィサージュ	地場産センター、今治国際ホテル、ネウボラ施設	テクスポート、コンピューターカレッジ
機能	教育・学習、文化・芸術、地域魅力発信、産業交流、飲食、スポーツ・ヘルスケア	教育・学習、興行、地域魅力発信、産業交流、飲食	文化・芸術、地域魅力発信、飲食	教育・学習、文化・芸術、地域魅力発信、産業交流、飲食、スポーツ・ヘルスケア	興行、地域魅力発信、飲食
施設構成	集約型・地上3階建	集約型	集約型・地上2階建	地上2階建（市街地）、地上1階建（港）	集約型
建屋構成例 ※記載の平米数は敷地面積	ホール型 8,700㎡	アリーナ型 8,700㎡	ホール型 4,800㎡	ホール型 市街地 8,700㎡ ホール型 港 4,800㎡	アリーナ型 33,000㎡
バリシップ開催方法	ホール	アリーナ + 仮設会場 （地場産センターも活用）	ホール + 仮設会場	ホール + 仮設会場	アリーナ + 仮設会場 （テクスポート今治も活用）

\*バリシップ開催時は、どの案においても地域住民、企業・大学、県外・海外観光客のすべてがターゲットとなる

# (参考) MICE中間報告を踏まえたネウボラ拠点施設整備の変更点

## (1) MICE中間報告を踏まえて

ネウボラ拠点施設とMICE施設との機能重複を避けるとともに、役割分担を考慮した整備計画の変更が必要

## (2) 基本計画 (R6.5策定) からの変更点

- ① 中央公民館機能 (ホール、会議室等) を切り離し、施設規模を縮小
- ② 中央公民館の解体時期、日吉公園整備時期を変更
- ③ 日吉小学校敷地に新設道路を整備予定

## (3) 施設規模縮小

基本計画	基本計画見直し後
約 7,850㎡	約 5,500~6,500㎡

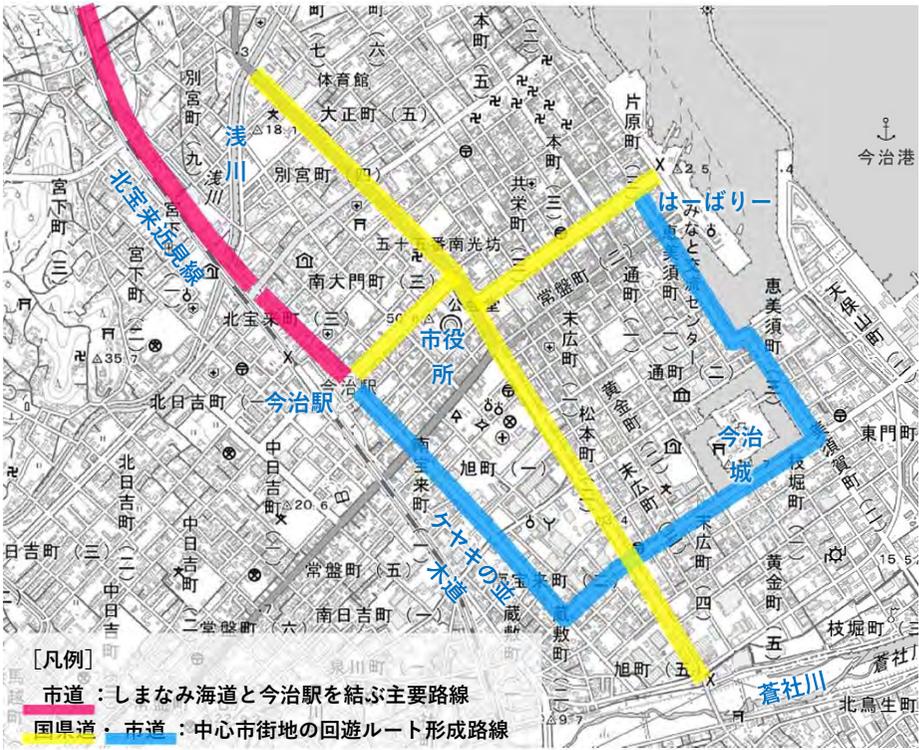
(※事業者提案により面積は変動する)



ネウボラ拠点施設整備の事業用地の想定

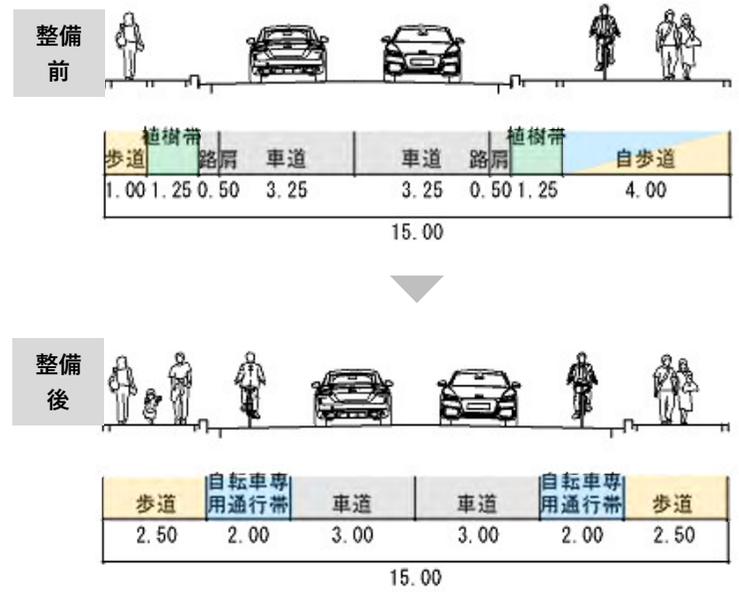
## 自転車通行環境整備（R8年度以降順次整備）

- 自転車ネットワーク計画に基づき、幅員再配分により安全で快適な自転車走行環境を整備する
- 現在しまなみ海道と今治駅を結ぶ主要路線「北宝来近見線」を整備し、Velo-city開催までの全線供用を目指す
- 今後は中心市街地における自転車利用の機運を高め、賑わい創出に繋げるため、自転車回遊ルートの形成に向けた整備を行う



[凡例]  
 市道：しまなみ海道と今治駅を結ぶ主要路線  
 国道・市道：中心市街地の回遊ルート形成路線

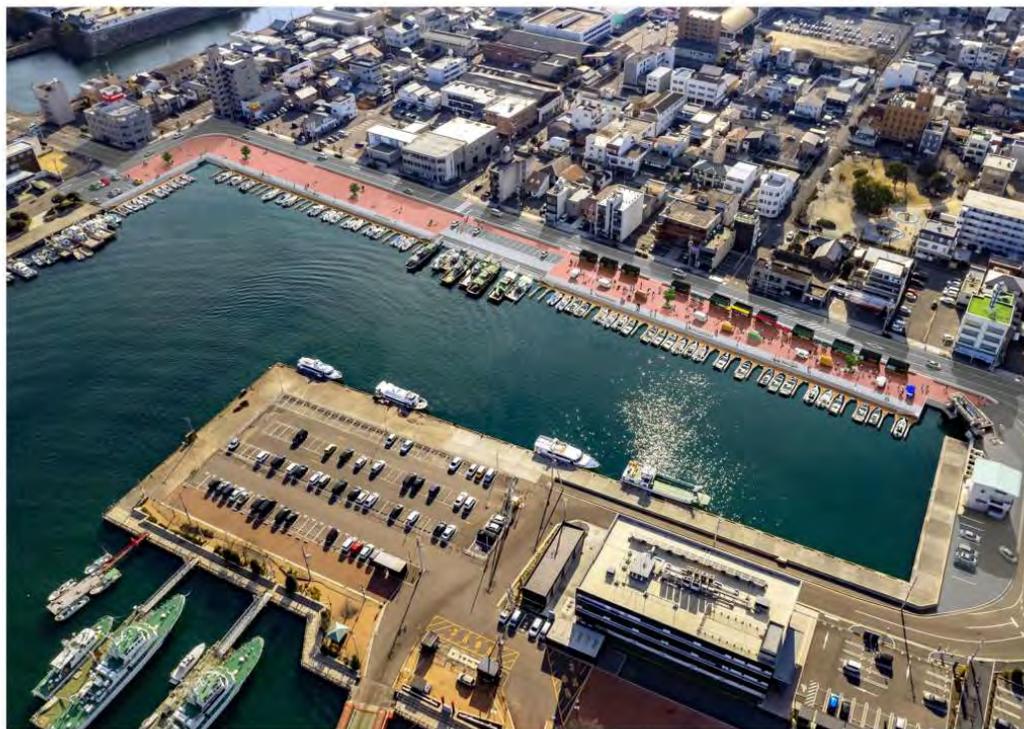
自転車ネットワーク計画路線 中心市街地整備位置図



北宝来近見線 標準断面図、現地写真  
 （上段：整備前、下段：整備後）

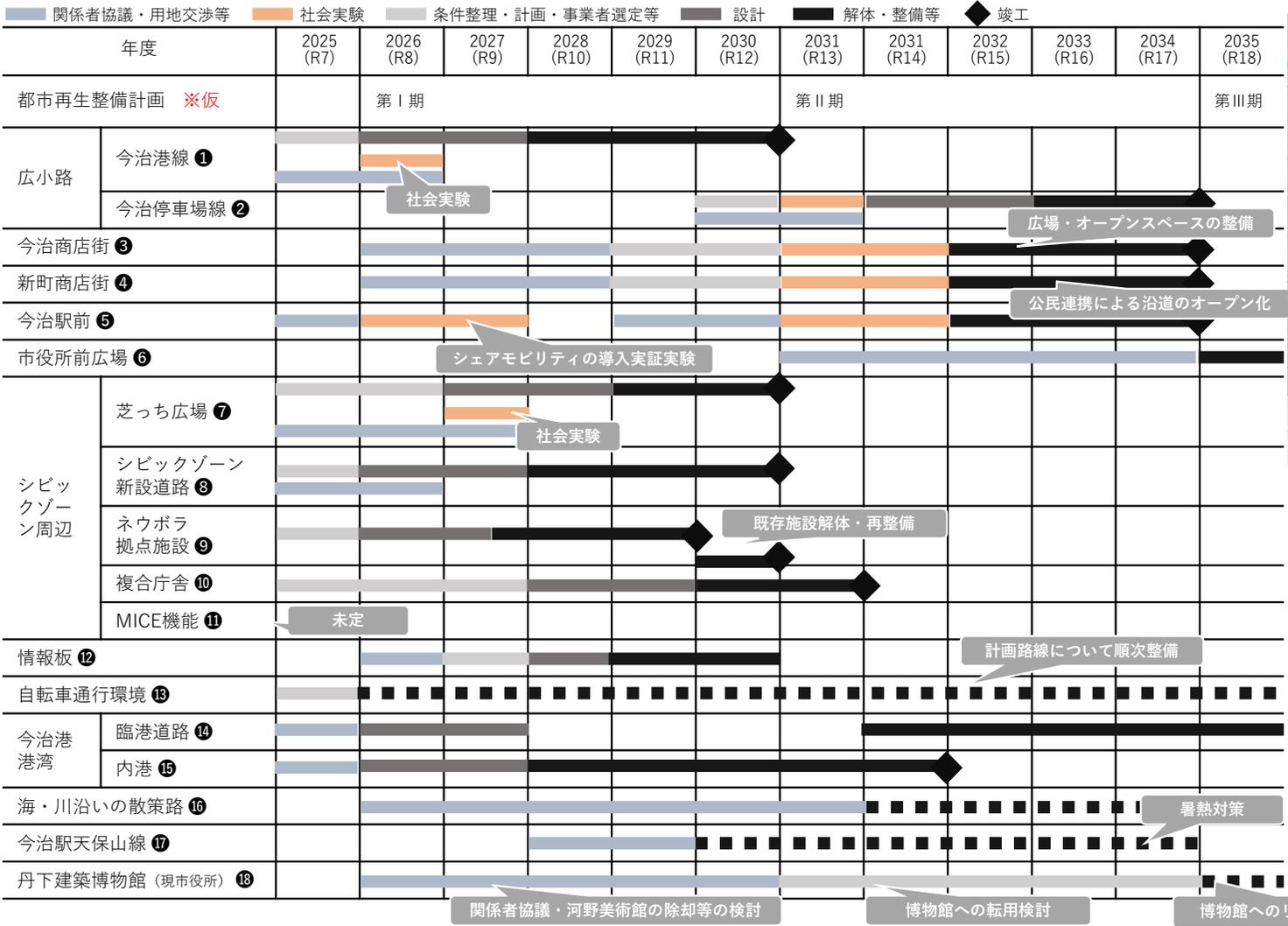
## 今治港港湾改修（完成年度：未定）

- 内港物揚場の改築について、グランドデザインでの「ミズベ・ウォーク」の構想を踏まえ、防災減災や老朽化対策だけでなく、水辺を生かした歩行者空間・滞留空間としての整備を検討
- 港でのマルシェの賑わいを日常や中心市街地に波及させることを目指す
- 10/1に関係者との意見交換会を実施し、将来の利用に関する様々な意見をいただいた



内港物揚場の将来イメージ（案）

# 想定される公共事業スケジュール (案)



公共事業の整備方針図 (案)

※今後の検討により変更の可能性がある  
 ※情報版は配置案を示す  
 ※MICE機能については、旧日吉小学校に設置する場合を想定して作図

関係者協議・河野美術館の除却等の検討  
 博物館への転用検討  
 博物館へのリノベーション

## 4. 【議題1】都市再生整備計画の検討について

---

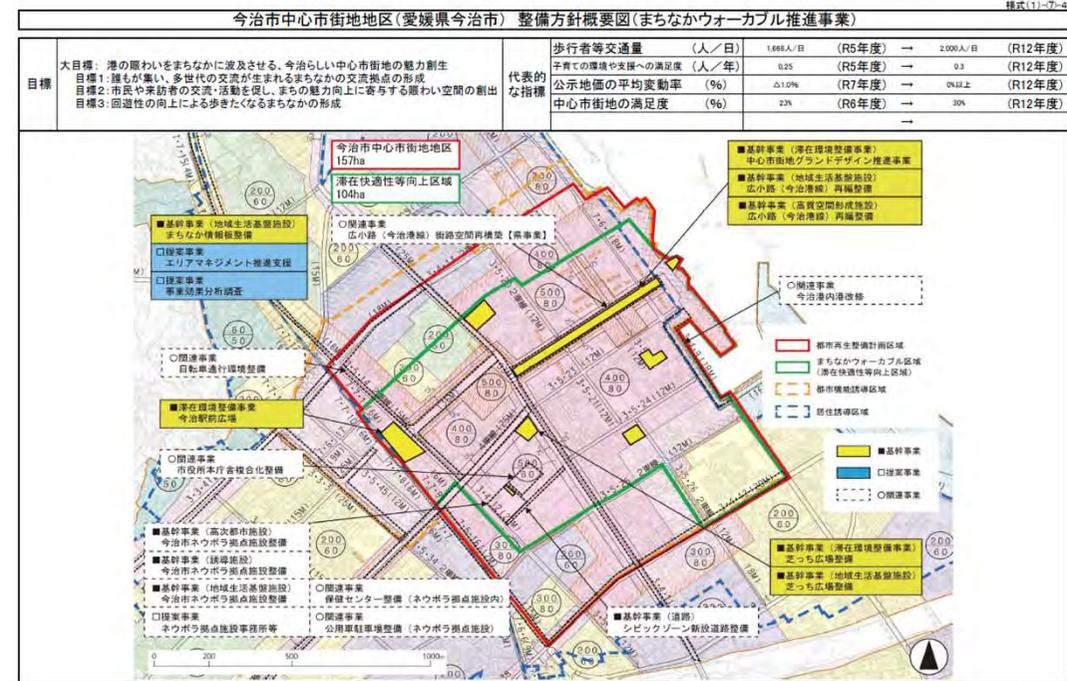
# 都市再生整備計画（案）の概要

- ・ グランドデザインに位置付けた各事業について、国の財政支援を活用した事業実施に向けて、国・県と協議を行いながら「都市再生整備計画」を策定を目指す
- ・ 現在市の検討している都市再生整備計画では、R8～12年度での事業実施に関して提案している



都市構造再編集中支援事業による整備方針概要図（案）

- 事業例**
- ・ ネウボラ拠点施設
  - ・ シビックゾーン新設道路 他



まちなかウォークラブル推進事業による整備方針概要図（案）

- 事業例**
- ・ 広小路（今治港線）
  - ・ 芝っち広場 他

- 都市再生整備計画においては、事業実施による目標を定量化し、実施後に達成度を評価するための指標（KPI）を設定することが求められている
- KPIの設定においては、事業実施の目的を踏まえた適切性・妥当性に留意した上で、簡易かつ継続的に収集可能なデータ等の活用が推奨されている

## 現在の検討しているKPIについて

※まちなかウォークブル推進事業での都市再生整備計画を対象とする

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
①歩行者等交通量	人／日	滞在快適性等工場区域内での歩行者及び自転車利用者の通行量	まちなかの回遊性の向上により、平常時の歩行者数等が増加する。	1,666人／日	R5年度	2,000人／日	R12年度
②子育ての環境や支援への満足度	人／年	未就学児童を持つ保護者の満足度が高い割合（5段階の上位2段階）	子育て支援施設を集約するなど複合拠点創出に伴う利便性の高いまちづくりにより、子育て環境や支援への満足度が向上する	25%	R5年度	30%	R12年度
③公示地価の平均変動率	%	中心市街地内4地点の公示地価の対前年平均変動率	まちの魅力が向上し、外部からの流入人口やまちなかへの出店者が増加し、地価が向上する。	△1.4%	R6年度	0%以上	R12年度
④中心市街地の満足度	%	中心市街地に「満足している」（「満足」・「やや満足」を合計した割合）と回答する方の割合（シンポジウム等におけるアンケート）	賑わい空間の創出等によりまちの魅力度が向上し、満足度が向上する。	23%	R6年度	30%	R12年度

## 5. 【議題2】今年度の検討内容について

---



# 「今治中心市街地交通デザイン戦略」の検討（2）

## （3）モビリティハブの配置の考え方（案）

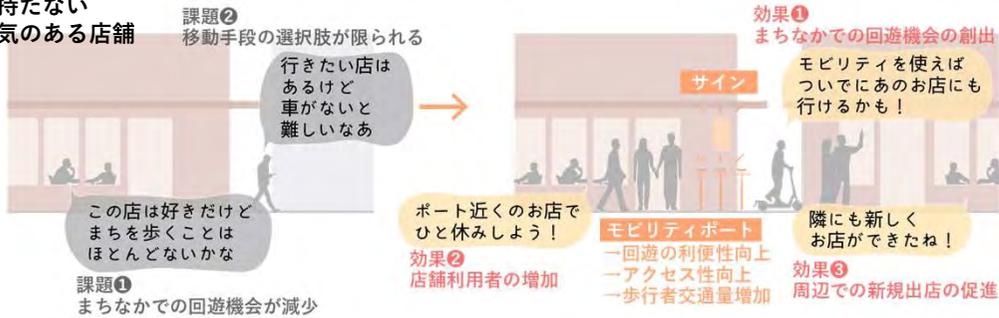
- 「**ゲートモビリティハブ**」：広域交通の結節点を選定
- 「**ローカルモビリティハブ**」：まちなかで人が集まる目的地となる場所、目的地までの移動をサポートするのに適した場所などを選定

## （4）ローカルモビリティハブの形成イメージ

- まちなか回遊向けの「モビリティポート」を設置
  - 回遊の参考となる情報を記載した「サイン」の設置等
- ※設置する施設、規模などは候補地の条件等も勘案し、関係者と調整の上で検討

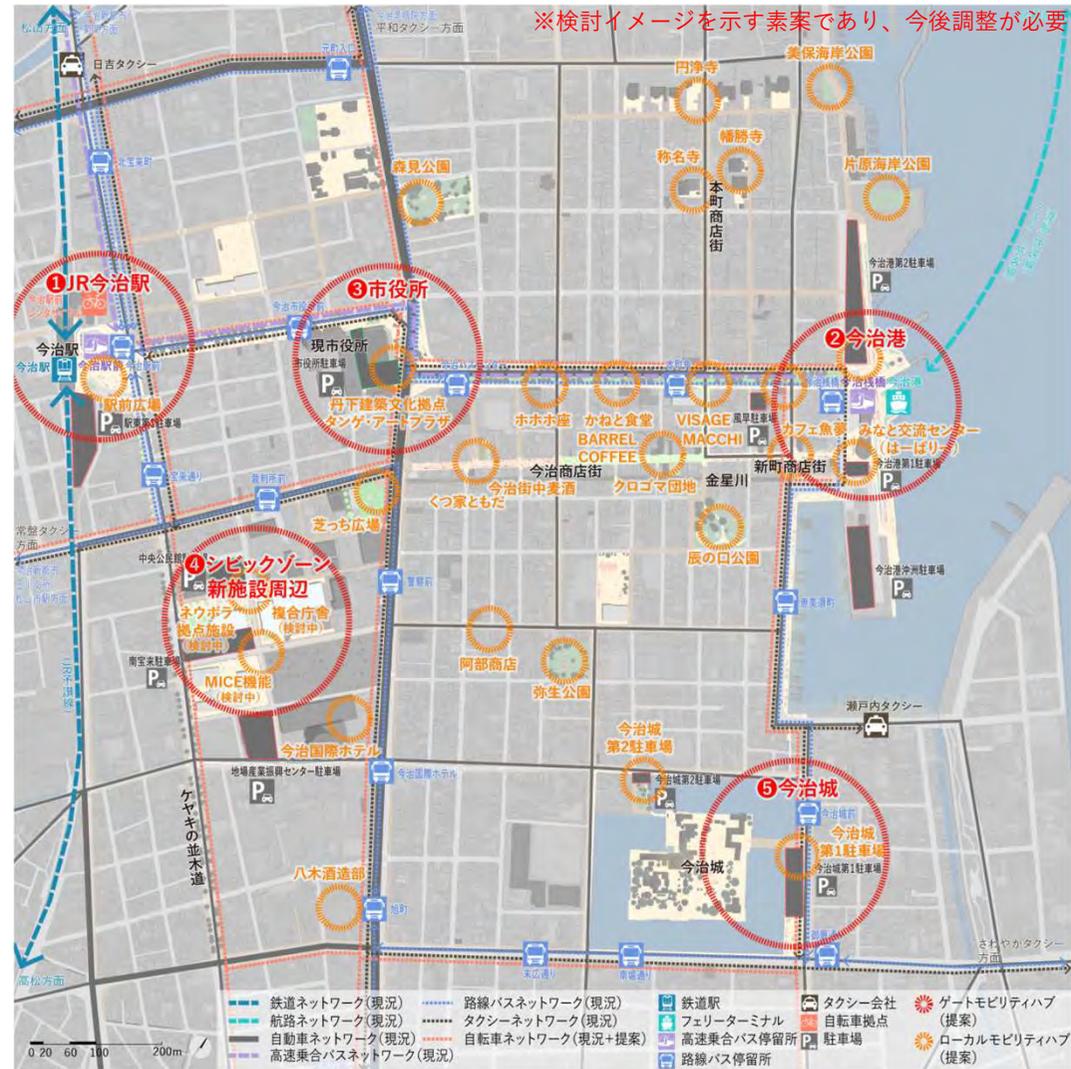
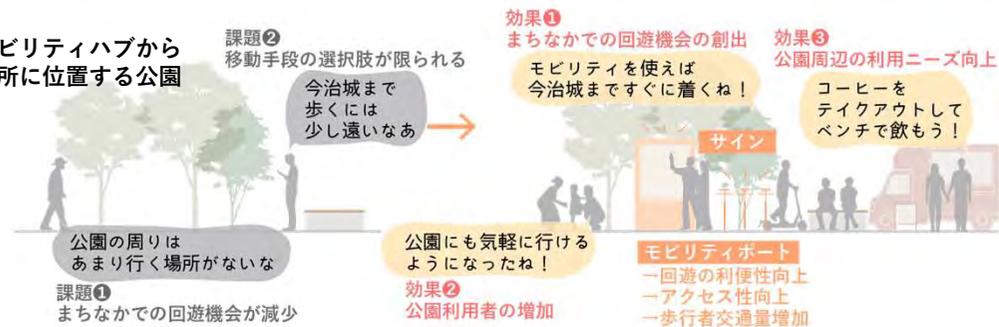
### 例1

駐車場を持たない  
地元で人気のある店舗



### 例2

ゲートモビリティハブから  
離れた場所に位置する公園



ゲートモビリティハブ、ローカルモビリティハブの配置（案）

# 広小路（今治港線）の検討（1）

- 短期具体事業として想定される広小路（今治港線）について、グランドデザインを踏まえながら、整備方針（案）やゾーニング・ネットワーク、空間デザイン等について検討し、再整備（案）をとりまとめる

## （1）現状分析・課題整理

アクティビティ分析（休日の歩行軌跡）



空間特性分析（動線的なつながりの良さ）



- 中心市街地は城下町由来の南北軸を骨格とした都市構造
- アクティビティ分析（2024）から、広小路、今治商店街に直交する南北方向の横道を通り抜ける行動が見られるも、信号交差点により南北の歩行者動線が迂回し、動線的なつながりが弱いことが課題

## （2）整備方針（案）

### 1. 歴史的文脈を継承した、まちづくりのシンボルとなる場の創出

市民の寄付で植樹された歴史的なクスノキの保全・活用や、丹下健三が構想した市民広場を介して市庁舎と街路がつながり港へとつながる都市軸の形成等の実現を検討する。

### 2. まちを訪れるきっかけを生み、周辺へと回遊を波及させる拠点の形成

キッチンカー等の出入りが可能なスペースの確保、次世代モビリティ導入など市民・来訪者が訪れる仕掛けづくり、まちなか回遊をサポートするシェアモビリティの拠点整備を検討する。

### 3. グリーンインフラを活用し、環境負荷を低減させる持続可能な都市基盤への再編

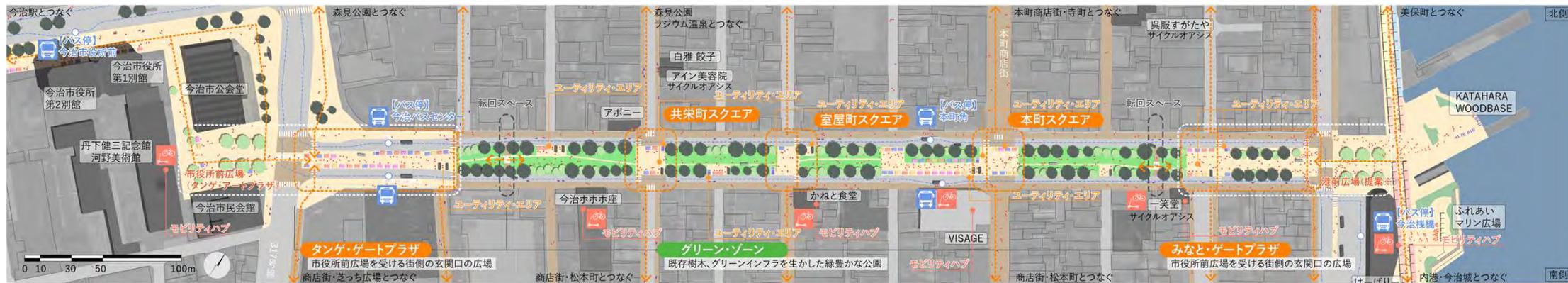
クスノキの保全だけでなく、内水氾濫による浸水被害が想定されることも踏まえ、雨庭など表面排水の浸透・貯留の機能を備えたグリーンインフラの技術を活用した整備を検討する。

### 4. 将来モビリティを考慮した運用・ニーズの時間変化に対応する空間の形成

中心市街地交通デザイン戦略の検討と連携しながら、将来的な交通モードの変化に対応できる交通空間デザインを検討する。

## （3）デザインノートに基づくゾーニング・ネットワークの検討（案）

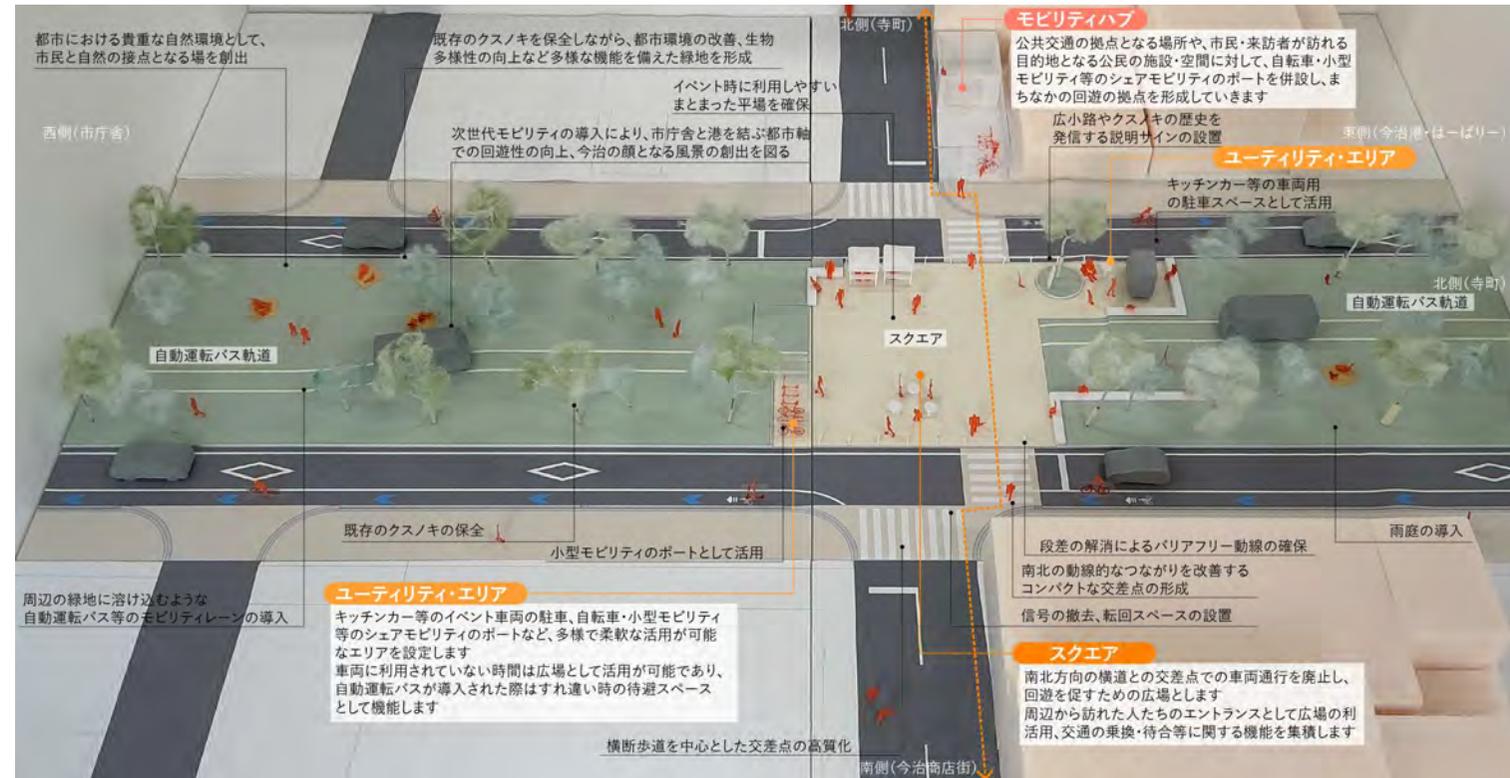
- 広小路に直交する南北方向の街路について、信号撤去等を検討し、軸線上にまとまった緑地・広場空間を創出することで、市庁舎と港をつなぐ都市軸の価値を高める
- エントランスにあたる市庁舎前、港前のそれぞれに拠点広場（ゲートプラザ）を設け、回遊の起点を形成する
- 広小路と南北方向の街路の交差点には多機能広場（スクエア）を設け、広小路の南北での動線的なつながりを強化し、城下町由来の都市構造を継承したエリア形成、回遊性の向上につなげる



計画平面図（案）

## （4）空間デザインの検討（案）

- 市庁舎と港を緑豊かな環境軸としてつなぎながら、南北の横道との交差点を広場（スクエア）とし、南北での動線的なつながりの強化、中心市街地の一体的なエリア形成、回遊の拠点形成を図る
- 自動運転バス、グリーンインフラの導入など、先進技術の活用を見据えた持続可能な都市基盤の形成と、まちのシンボルとなる風景の形成を図る



鳥瞰での全体イメージ



南北の横道からみたイメージ



ユーティリティ・エリア

# 広小路（今治港線）の検討に関していただいたご意見

## 8月8日(金)に地域の方々との意見交換会を実施



意見交換会の様子



いただいたご意見の平面図への反映

項目	意見要旨
広小路 全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者にとっては、<b>トイレや日陰がないと日常的な利用は難しい。</b></li> <li><b>商店街とのつながり</b>が出てくるとよい。商店街も含めてゆったり過ごせる場所になると、回遊も生まれてくる気がする。</li> </ul>
スクエア 全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>マルシェ等で利用する際に4~5店舗しか参加できないと人が寄ってこない。<b>できれば10店舗くらいが参加できる広いスペースの方が使いやすい。</b></li> <li><b>上下水、電気が整備されていると、マルシェの際に利用しやすい。</b></li> <li><b>イベント用分電盤もあるとよい。</b></li> </ul>
本町 スクエア	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>居心地の良い場所にしていくのであれば、港側の方が落ち着くように感じる。</b></li> <li>社会実験ではまちなかりビングのように、人工芝やベンチでくつろげるスペースにしてもよいと思う。</li> </ul>
タンゲ・ ゲートプ ラザ周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に観光客を誘導するような、観光拠点となる場所がない。</li> <li><b>市役所側の入り口にあたる場所に観光案内の拠点があるとよい。</b></li> </ul>
沿道施設 (ビサー ジュ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地には若い子、学生が遊べる場所がないので、<b>若者が楽しめるコンテンツが入ってくるとよい。</b></li> <li>FC今治卒業生など、商売で起業したいと考える若い人が参画できるチャレンジショップがあるとよい。</li> <li>保育園や介護施設、高校生や若い人たちのコミュニティスペース、ワークスペースになるのもよい。</li> </ul>

# 広小路（今治港線）での社会実験の企画検討（1）

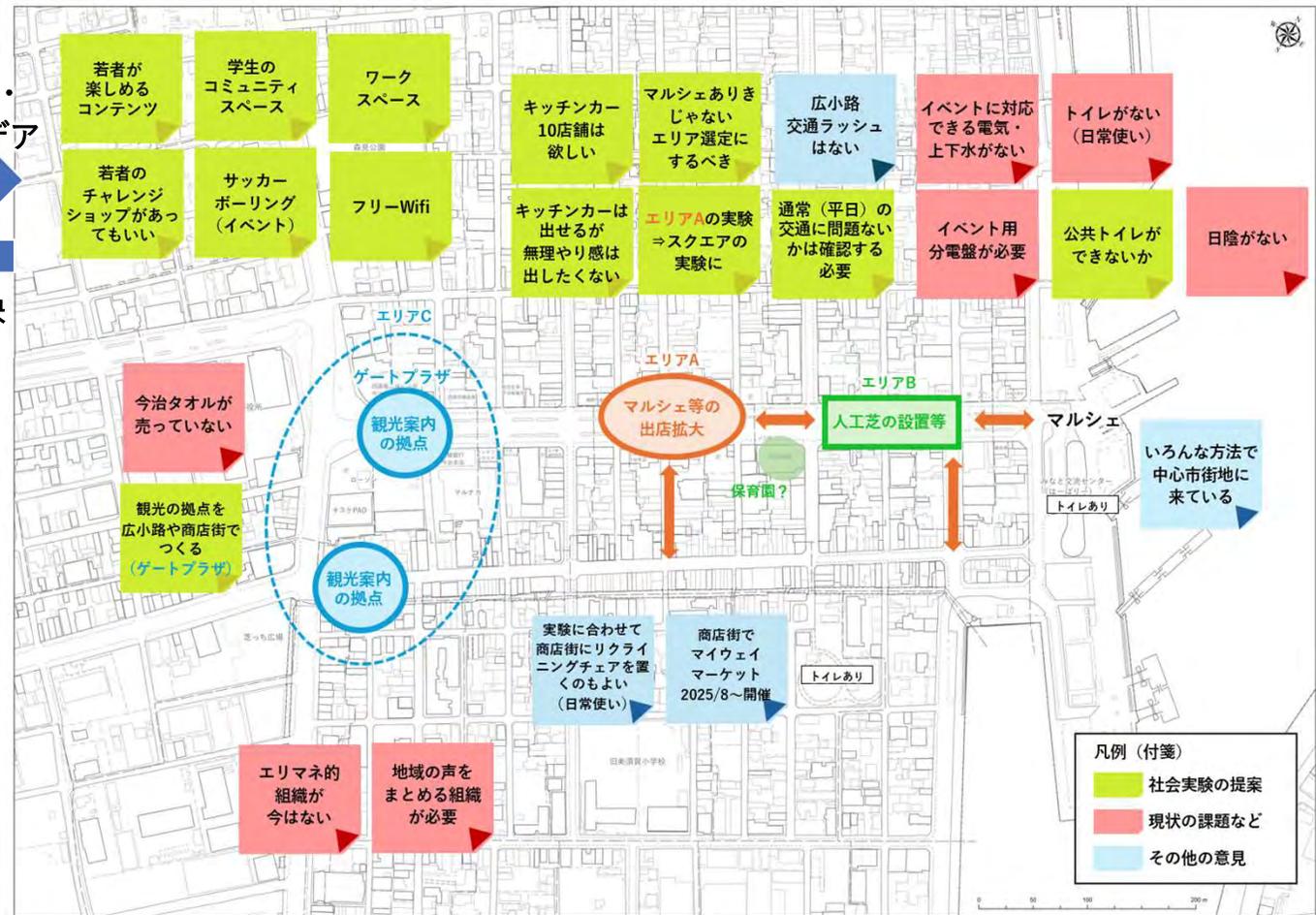
- 社会実験の実施内容について、事務局でたたき台を作成後、8/8協議の意見交換結果を踏まえて再検討

## 社会実験の検討案（たたき台）



意見・アイデア  
↓  
反映

## 8/8協議でいただいた意見



8/8協議の様子

# 広小路（今治港線）での社会実験の企画検討（2）

## ■ 社会実験の概要

- 車両の通行規制等による交通への影響の検証を行うとともに、将来的な広小路の空間イメージを体験する
- 実験期間は2週間（うち1日は「せとうちみなとマルシェ」の実施日）とし、交通規制は24時間の実施を検討

<実験テーマ> 広小路・商店街・みなとが一体となって実施する社会実験『（仮称）IMABALINK』



この区間については詳細図を作成

※上記の内容は確定事項ではありません

# 広小路（今治港線）での社会実験の企画検討（3）

## ■ 社会実験の内容：コミュニティ・ラウンジ

「せとうちみなとマルシェ」の出店拡大と飲食スペースの整備により  
みなとの賑わいを波及させる



tiny stand(購入orレンタルあり) or マルシェのテントが並ぶ

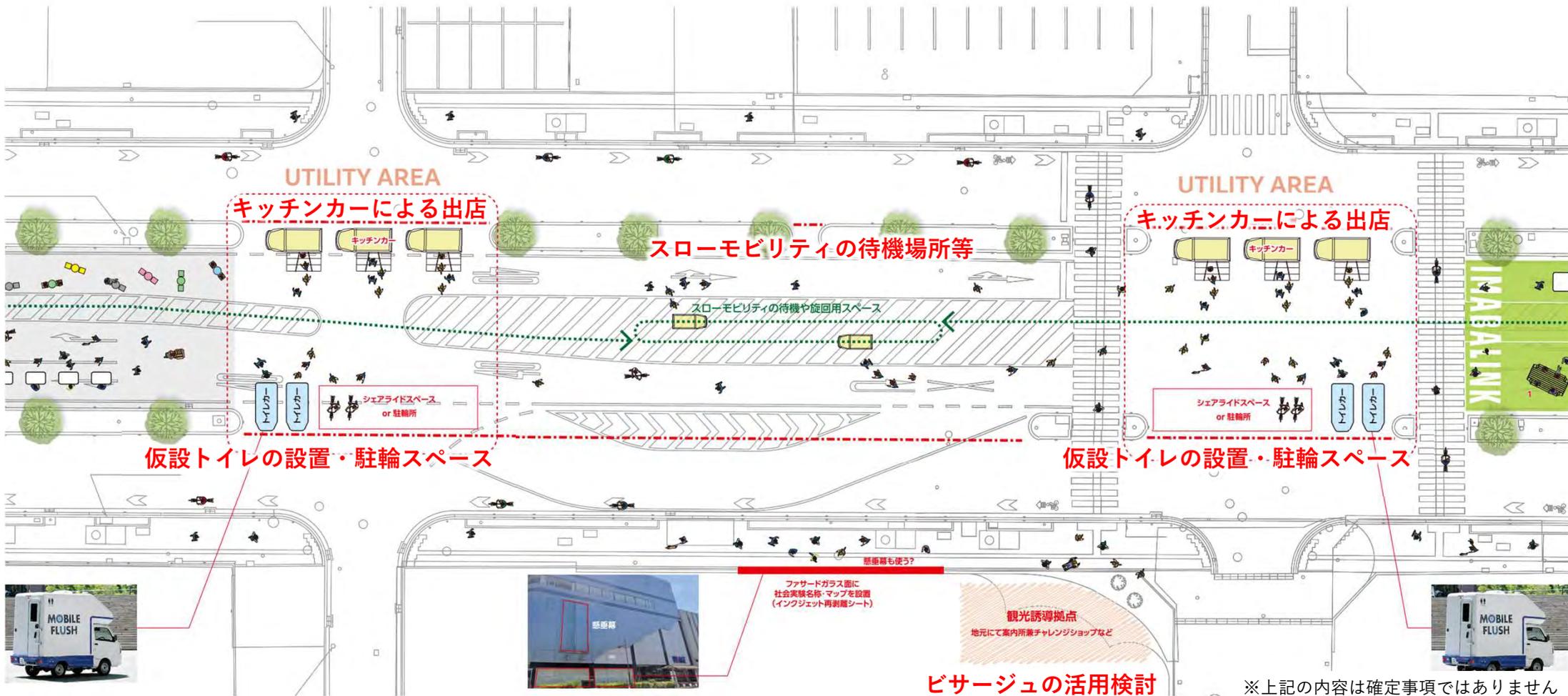


※上記の内容は確定事項ではありません

# 広小路（今治港線）での社会実験の企画検討（4）

## ■ 社会実験の内容：ユーティリティ・エリア

再整備案における活用方法を踏まえた滞留空間の創出や周辺エリア等とのつながりを強化する

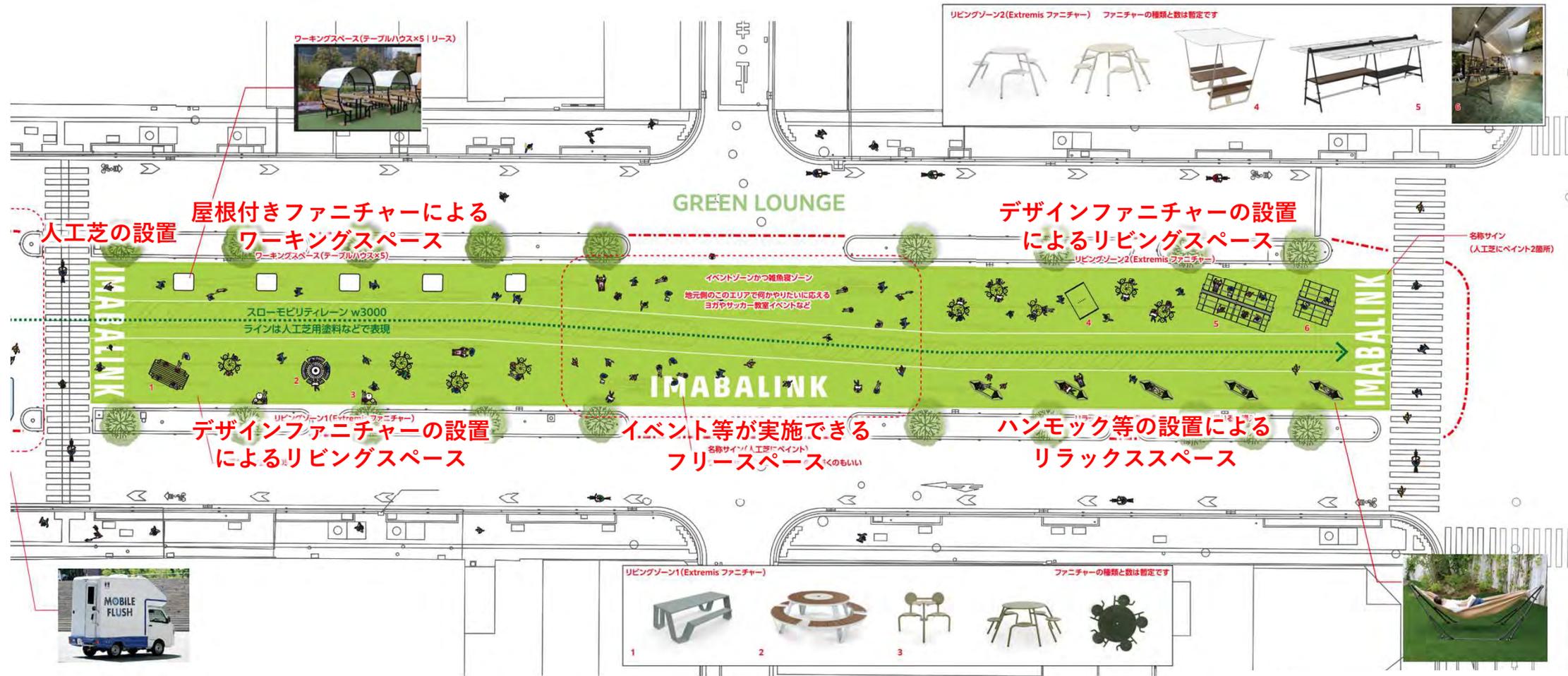


※上記の内容は確定事項ではありません

# 広小路（今治港線）での社会実験の企画検討（5）

## ■ 社会実験の内容：グリーン・ラウンジ

中央緑道化を見据えた設えによりシンボリックな空間として多様なアクティビティを誘発する

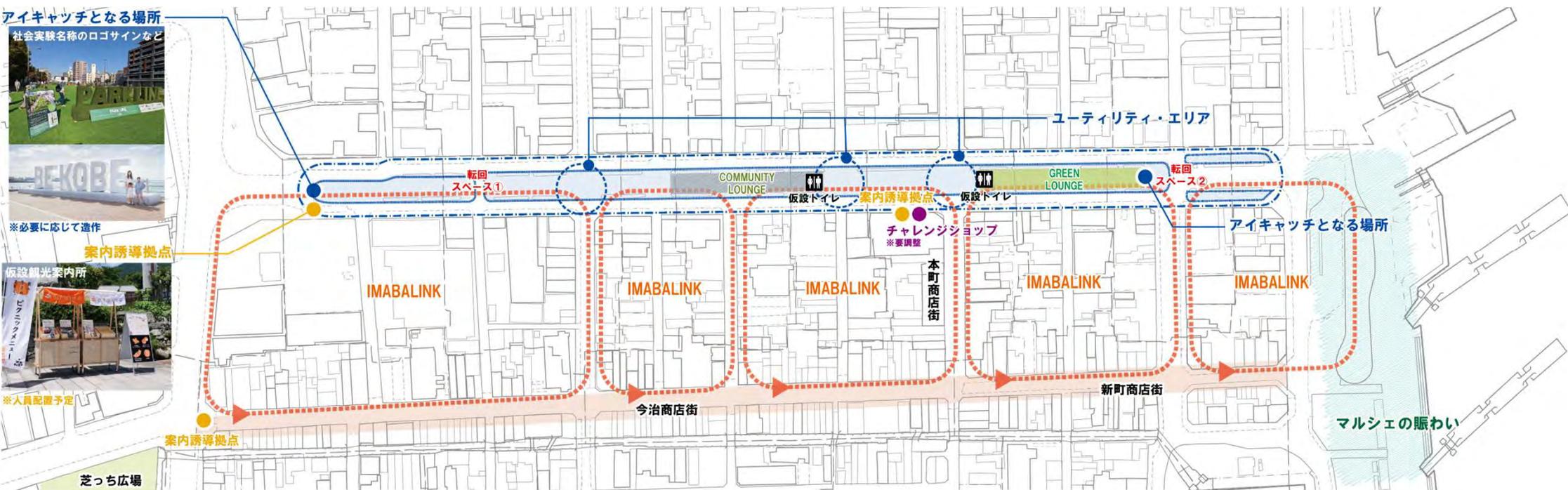


※上記の内容は確定事項ではありません

## ■ 今後の主な検討事項

- 実験実施の詳細（具体的な実験期間や時間帯、交通規制の方法など） → 警察等関係機関との協議・調整
- 実験の内容、フリースペースの活用方法、沿道施設との連携 → プレイヤー等との協議・調整
- みなとや商店街等の広小路周辺との連携 → せとうちみなとマルシェや今治商店街関係者との協議・調整

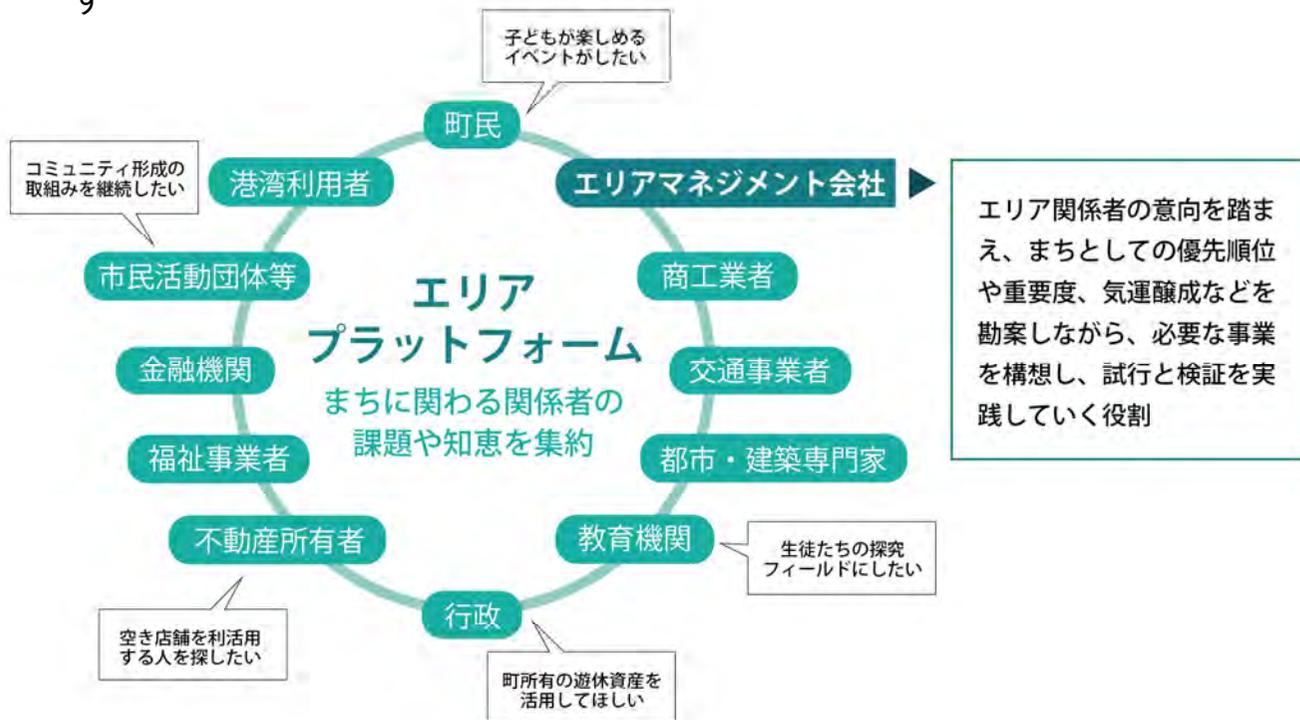
社会実験の実施概要（再掲）



→ 次年度の実施に向けて「社会実験実施計画書（案）」として今年度とりまとめ

# エリアマネジメントの推進に向けた検討（1）

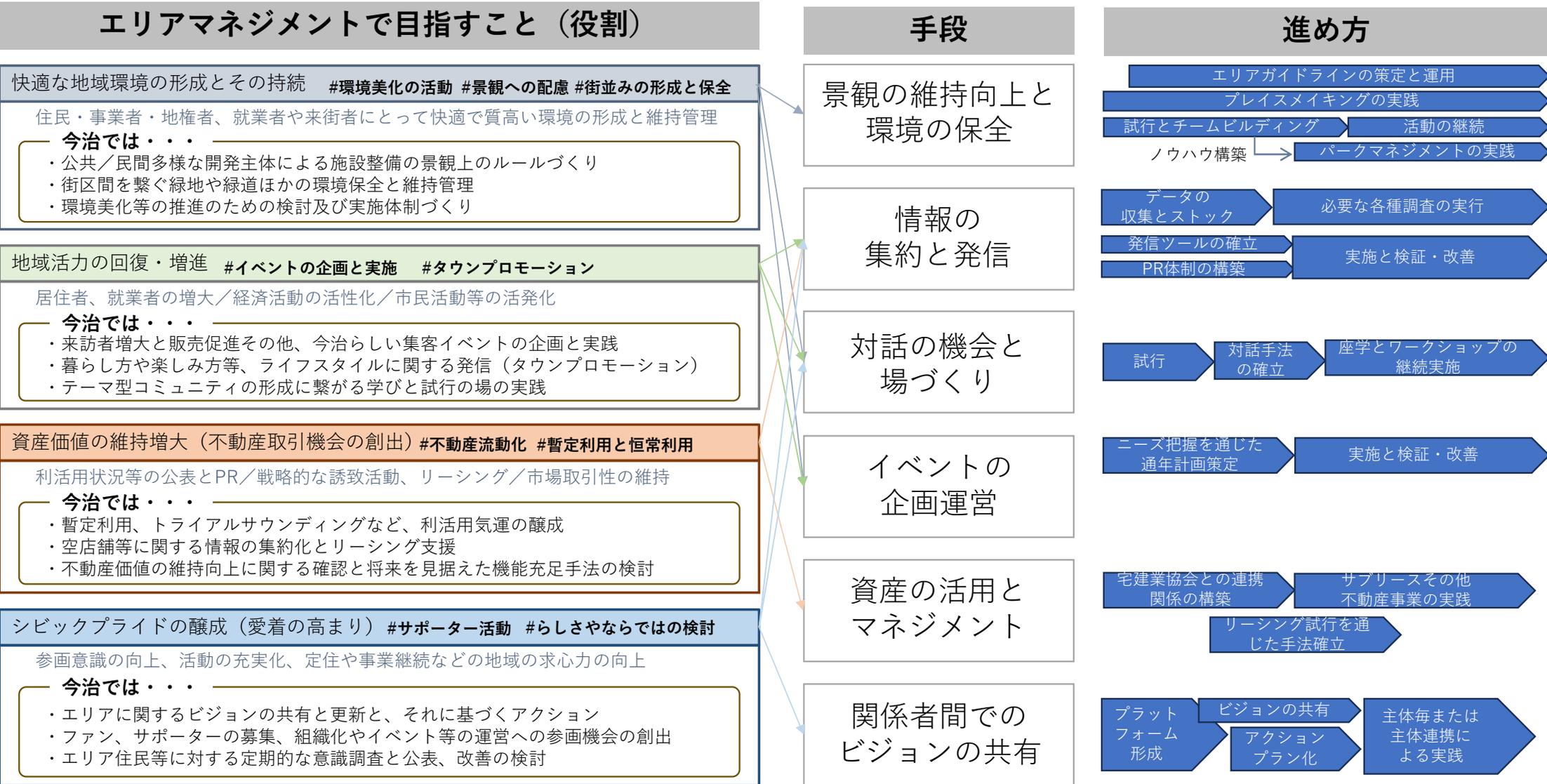
- 中心市街地におけるエリアマネジメントの推進に向けた、エリアプラットフォーム（行政やまちづくりの担い手などが集まって、まちの将来像を議論し・描き、その実現に向けた取組について、協議・調整を行うための場）の設立検討や都市基盤整備につながる社会実験への主体的参画等を目指す
- 今年度は今治のまちづくりに関わる関係者とのつながりを広げるべく、新たな組織や個人にもコンタクトを取り、それぞれどのような方がいるのか、これからどう関わってくれる可能性があるのかを把握することを目指す



## 今年度に取り組んでいること

- 今治のまちの現在の取り組みと、エリアマネジメントとは何かについて、関わり得る市民や事業者の認識を深める
- 今治のまちに必要な機能と役割、今治らしいエリアマネジメントについて一緒に考える
- どんな登場人物が、何の役割を担うのか、配役をイメージする
- 推進役を担う組織は既存組織か、あるいは新たに設けるか、組織のあり方と運営について考える
- 実現に向けた進め方を検討する

# エリアマネジメントの推進に向けた検討（2）



## ■ 個別ヒアリングの実施

- グランドデザインの検討過程から議論をしてきた協議会（デザイン会議・部会）の委員の皆さんに加え、今年度は今治のまちづくりに関わる新たな組織や個人にもコンタクトをとり、それぞれどんな方がいるのか、今後どのように関わってくれる可能性があるのか把握することを目指す
- コンタクトをとっていく方々の例は下記の通り：
  - ① まちづくり団体および青年経済人の集合体として、今治のまちの活性化に汗している・汗しようとしている組織
  - ② 実際に、すでに商店街の店舗改修などに取り組んでいる工務店や、まちの商店として地域の活性化を目指して取り組んでいる方

日にち	協議先
10/22 (水)	<ul style="list-style-type: none"><li>• エムエムハウス 清水氏</li><li>• NAKAMURAYA 中村氏</li><li>• Barrel coffee 高橋氏</li><li>• 今治商工会議所青年部（今治YEG）</li></ul>
10/23 (木)	<ul style="list-style-type: none"><li>• のどか荘 難波氏・篠宮氏</li><li>• 今治経済新聞 小林氏</li></ul>

10/22~23個別ヒアリングの予定

# エリアマネジメントの推進に向けた検討（4）

## ■ 「今治人録」の整理

- 他自治体の事例も参考に、今治市中心市街地まちづくりに関わる方々について情報を束ねた人材情報のプラットフォームとなる「今治人録」の作成を提案
- 地域内で個別に行われる活動の連携や、まちづくりに関わる取組の全体像の発信など、活用の可能性について今後検討が必要



### 01 | みなの賑わいをつくるマルシェを牽引



**株式会社ハラプレックス 代表取締役社長  
今治商工会議所 議員  
せとうちまなとマルシェ運営委員会 会長**  
**原 竜也**

- ・ 印刷、造幣、イベントを高稼業とする株式会社ハラプレックスの代表取締役社長兼専務役員。2023年1月に「セトウチマナトラボ」をテーマに、アパレルやインテリアのデザインから可能な施設「HARAPLEX Labo」をオープン。
- ・ 今治開港150周年を迎えた2022年より始まった「せとうちまなとマルシェ」の運営委員会を牽引。マルシェは、冬場の1日1回（通常）となるものの様々なイベントとして期を上げ、近代的な魅力を提供するサブイベント「夜間市場」や「夜間市場」の開催を目的としている。初年度の経済効果は10億円にのぼると試算。
- ・ 店舗の広さ、出店の手数料、売上の10%の非営利により運営を行っているが、運営メンバーがボランティアの確保など持続可能な運営スキームの構築に課題。マルシェの賑わいを市民の誇りに変えていくことを目指す。

【参考・出典】

- ・ <https://gwpk.net/j-link/archives/7697/>
- ・ <https://www.fcn.jp/articles/13979/>
- ・ <https://gpmatters.net/126025/>

### 02 | サイクリストを地域資源としたまちづくりを推進



**一般社団法人しまなみジャパン  
専務理事**  
**坂本 大蔵**

- ・ 1980年に創業に入り、中村愛蔵館や知事賞の自転車文化の発展や普及拡大に努める。2022年より開始、レンタルサイクル事業を柱としたサイクルツーリズムによるしまなみ循環エリアの地域振興に取り組む。自転車歴は31年。自転車利用促進局の上級アドバイザーを務めるほか、大学や各地の講演士として自転車文化の普及や自転車文化の発展に努める。
- ・ しまなみジャパンは、しまなみ循環エリアにある「今治市 土佐郡 喜多郡」から構成された地域DMOとして2017年に設立。しまなみ循環の観光振興・地域振興を目的とし、主にレンタルサイクル事業や観光プロモーション、地域マネジメントを行う。
- ・ 現在はファミリーキャンプとNTTコミュニケーションズ、エコモビリティソリューションズパートナーに参入し、レンタルサイクル事業のDMOに取り組む。

【参考・出典】

- ・ <https://gpmatters.net/arc/12789.html>
- ・ <https://kshm-fn.jp/2022/>
- ・ <https://www.fcn.jp/articles/13979/>
- ・ <https://www.fcn.jp/articles/13979/>
- ・ <https://www.fcn.jp/articles/13979/>
- ・ <https://www.fcn.jp/articles/13979/>

### 03 | 自転車をきっかけに持続可能なまちをつくる



**NPO法人シクルーツーリズムしまなみ  
代表理事**  
**山本 優子**

- ・ 愛媛大学教育学部卒業後、就職に迷った後に今治NPOサポートセンターに勤務。2009年にNPO法人シクルーツーリズムしまなみを設立。当初は、島根県をモデルとして、島根県中津川市を中心とした自転車を中心とする地域振興活動「シクルーツーリズム」を推進。今治シクルーツーリズムをモデルとして、持続可能なまちづくりを目指す。
- ・ サイクリストのニーズを把握するためのアンケートを実施。詳細な自転車専用マップ「しまなみ自転車マップ」の制作、気軽に利用できる「しまなみサイクルポイント」の設置、自転車用のバイクシェアリングの導入など、持続可能なまちづくりを推進。
- ・ 事業拠点の一つとして、今治駅前の中古ハウス「シクルー」を運営。サイクルスポットだけでなく、お土産さん、バイクパーカーなどさまざまな人が訪れる場となっており、利用者の4割は海外の観光客。

【参考・出典】

- ・ <https://www.city.imakuni.ehime.jp/imagheri/mtcy/story05.pdf>
- ・ <https://www.imakuni.ehime.jp/imagheri/mtcy/story05.pdf>
- ・ <https://www.imakuni.ehime.jp/imagheri/mtcy/story05.pdf>
- ・ <https://www.imakuni.ehime.jp/imagheri/mtcy/story05.pdf>

### 04 | 今治の風土が織りなす魅力を探求し、次世代に継承



**今治明德短期大学  
ライフデザイン学科 講師  
地域連携センター長、キャリア支援委員**  
**大成 経凡**

- ・ 愛媛県立今治商業高等学校、専修大学社会学部社会学科を卒業。今治市・越前町の中学校で社会科講師として15年勤務した後、愛媛県・安芸県教育委員会の文化財調査事業などに参加。県民局（現）に勤務し、生涯学習課の生涯学習主任を務める。『Topo』人の旅の記』の編集にも携わり、今治市街地のまちづくりに関わっている。
- ・ 『しまじりの旅』を執筆し、そのことを地域活性化につなげる「研究テーマ」として活動。近年は、今治地方の近代史家の経歴（顕彰）に力を入れ、ご自身の研究『しまじりの旅』（今治県立美術館）の事業にも積極的に参加している。

【参考・出典】

- ・ <https://www.melion.co.jp/daijaku/teachery.html>
- ・ <https://www.193534.jp/Travel/gh70a-213>
- ・ <https://www.melion.co.jp/daijaku/teachery.html>
- ・ <https://www.melion.co.jp/daijaku/teachery.html>
- ・ <https://www.melion.co.jp/daijaku/teachery.html>
- ・ <https://www.melion.co.jp/daijaku/teachery.html>

今治人録の資料イメージ（例）  
（※記載内容はWeb記事等を参考に編集したものであり、本人の確認は得られていない）

## 6. 意見交換

---

## 7. 今後のスケジュール

---

## 第2回公共空間再編専門部会

日時： 2025年12月19日(金) 15:00～

場所： はーばりー

議題（案）：

- 中心市街地での検討・取組について（続報）
- 第1回専門部会を踏まえた、今年度の検討内容について
- 都市再生整備計画（案）について
- 今後のスケジュール

（参考）

## 第2回今治市都市再生協議会

日時： 2026年2月予定

場所： 未定

議題（案）：

- 第1～2回専門部会での議論の報告
- 都市再生整備計画（案）について
- 今後のスケジュール

# 「中心市街地まちづくり市民会議2025」のご案内

日時： 2025年12月20日(土) 13:00～16:30 (予定)

場所： 今治市みなと交流センター「はーばりー」  
1階 みなとホール (仮)

## プログラム (案)：

- 各団体によるまちづくりに関する発表  
(学生、まちづくりのプレイヤーなど)
- 今治市中心市街地グランドデザインの説明
- まちづくりワークショップ (仮) グループワーク

## まちづくりワークショップ (仮) の実施イメージ：

現在のグランドデザインで示されているまちの将来像や各発表を聞いて、「まちなか」の未来とじぶんの関わりについて考えてもらい、こうなったらよいなと思うことや、自分がまちでやりたいこと等について意見・アイデアを出し合って話し合う場を設ける。



各団体によるまちづくりに関する発表のイメージ  
(昨年度の中心市街地まちづくり市民会議より)



まちづくりワークショップ (仮) のイメージ

(画像出典： [https://ishi-community-design.jp/2022/01/06/jisedaikogai/?utm\\_source=chatgpt.com](https://ishi-community-design.jp/2022/01/06/jisedaikogai/?utm_source=chatgpt.com))